

## 城のとなりの博物館「松江歴史館」

—— 城下町松江の歴史をひもとく ——

松江歴史館は、松江城の東に隣接し、松江藩の家老屋敷が建ち並んでいた場所にあります。江戸時代、雲州と呼ばれた出雲国の中心地松江は、松江城天守をはじめ造成当時の堀割やまち並みを今に残す城下町です。



松江歴史館では、城や城下町の仕組みなど松江の江戸時代を中心とした歴史や文化を紹介しています。歴史に関する講座や季節の体験イベントを開催するほか、天守を借景にした日本庭園、伝利休茶室、家老長屋を備えています。菓子処松江の名工が目の前でつくる和菓子や抹茶をいただける喫茶「きはる」やミュージアムショップ「縁半」もあります。

### ◎日本庭園



### ◎基本展示室



### ◎和菓子と抹茶



## 松江歴史館

〒690-0887 島根県松江市殿町279番地 Tel.0852-32-1607 Fax.0852-32-1611

◎開館時間：4月～9月 ▶ 午前8時30分～午後6時30分 (受付は閉館30分前まで)  
10月～3月 ▶ 午前8時30分～午後5時

◎休館日：毎月第3木曜日(祝日の場合は翌日)

<http://www.matsu-reki.jp/>

## ◆ 松江城のご案内

### ◎交通アクセス

JR松江駅からバス……15分 車：大手前駐車場からすぐ  
バス：大手前下車……徒歩2分



## ◆ ご利用案内

本丸開門時間	4月1日～9月30日	午前7時～午後7時30分
	10月1日～3月31日	午前8時30分～午後5時
登閣時間	4月1日～9月30日	午前8時30分～午後6時30分 (受付は午後6時まで)
	10月1日～3月31日	午前8時30分～午後5時 (受付は午後4時30分まで)
定休日	無休	
お問い合わせ	☎0852-21-4030	

<https://www.matsue-castle.jp/>

E-mail:m.oshiro@web-sanin.co.jp

松江城山公園管理事務所

〒690-0887 島根県松江市殿町1-5 Tel.0852-21-4030 Fax.0852-21-4211



# 国宝 松江城

Matsue Castle  
NATIONAL TREASURE




## ◆国宝松江城天守

国宝松江城天守は全国に現存する12天守のひとつで、平面規模では2番目、高さでは3番目の規模を誇ります。城郭建築最盛期である慶長期を代表する天守として、平成27年7月に国宝に指定されました。明治初頭、全国の多くの城が取り壊される中、松江城天守は旧松江藩士高城権八や豪農勝部本右衛門親子らの奔走によって取り壊しを免れ、以降も市民の手によって守られ今日に伝えられています。

### ◎歴代藩主家系

慶長5(1600)年～寛永10(1633)年

 堀尾氏 24万石 | 松江開府の祖 吉晴・初代藩主 忠氏・2代 忠晴




堀尾吉晴肖像  
(妙心寺春光院蔵)

#### 堀尾吉晴

慶長5年(1600年)の関ヶ原合戦の後、出雲・隠岐両国を拝領した忠氏とその父吉晴は、城地を松江に選定しました。吉晴は、豊臣秀吉、徳川家康と二人の天下人に仕えました。孫の忠晴を助け松江城と城下町を建設し、現在の松江市の礎を築いたのです。

寛永11(1634)年～寛永14(1637)年

 京極氏 26万4千石 | 初代 忠高




京極忠高肖像  
(清養寺徳源院蔵)

#### 京極忠高

堀尾家の跡を継ぎ、京極「若狭守」忠高が出雲・隠岐両国を拝領。3年余りの統治期間中に「若狭土手」と呼ばれる堤を築くなど治水事業で名を残し、幕府直轄領であった石見銀山の監督権を与えられるなど、歴代松江藩主のなかでも最大の領地を治めました。

寛永15(1638)年～明治4(1871)年

 松平氏 18万6千石 | 初代 直政～10代 定安



松平直政肖像  
(松江歴史館蔵)

#### 松平直政

京極家の跡を継ぎ、徳川家康の孫にあたる松平直政が出雲国を拝領。慶長19(1614)年、14歳の直政は、大坂冬の陣で初陣ながらも力戦奮闘し、敵将真田信繁(幸村)からその武勇を讃えて軍扇を投げ与えられたといわれます。以後233年、10代にわたり出雲国を治めました。

### ◎明確な築城年代

平成24(2012)年5月に再発見された2枚の祈禱札からは、「慶長十六」や「正月吉祥日」などの文字が確認されました。

その後の調査で、この祈禱札が地階の2本の通し柱に打ち付けられていたことが判明し、築城が慶長16(1611)年であることが確定しました。松江城天守は築城当時の資料によって築城年代が確認できる極めて希少な例となりました。

※天守地階でレプリカによる再現展示中

祈禱札  
(国宝附 松江歴史館蔵)

〔梵奉〕  
慶長拾六年 辛亥 大山寺 敬  
奉讀大般若經六百部 武運長久 処  
正月吉祥日 白

〔梵奉〕  
慶長拾六曆  
正月吉祥日 言 欽  
讀如意珠經長栄 処

7代 松平治郷(不昧) 宝暦元(1751)年～文政元(1818)年



松平不昧肖像  
(月照寺蔵)

歴代の松江藩主の中で、松江藩中興の祖とされるのが、大名茶人として名高い松平治郷です。明和4(1767)年に治郷が藩主となった当時は財政難でした。治郷は「御立派(おたては)の改革」と呼ばれる財政再建策を進め、藩の財政を立て直したのです。その一方で茶の湯や禅学を学び、自らの茶道観を確立。「不昧公」の名で今も多くの人に親しまれています。

### ◎松江城天守の特徴

天守は本丸中央の東寄りに南面して建ち、外観は4重、内部構造は5階、地下1階の構造で、入口に附櫓を設けた複合式望楼型に分類されます。外壁の多くは黒色の下見板張り、随所に狭間や石落とし、石打柵などの防御装置を配し、内部に井戸や塩蔵を設けるなど実戦を強く意識して築かれています。



- 1 望楼… 最上階の5階は、壁のない360度の展望が広がる望楼で、松江城天守は初期形態の望楼型に分類されます。
- 2 鯀……… 木造銅板貼りで高さは210cm。現存12天守では最大のもので、昭和の解体修理で外された古い鯀が天守地階で保存展示されています。
- 3 花頭窓… 3階の南北の張出部中央にある寺院様式の窓で外観に風格を与えています。
- 4 下見板… 白漆喰の壁は少なく、大部分は黒色の下見板で覆われています。黒を基調とした古色で質実な印象を醸しています。
- 5 鬼瓦… 屋根の隅々には鬼面の鬼瓦が載っています。他城では家紋や吉祥紋様が用いられることが多く、松江城の例は珍しいものです。
- 6 附櫓… 天守入口の防御を固めるための櫓で鉄延板貼りの大扉をもち、中へ入ると2段構えの枳形の小広場が備えられています。

### ◎望楼型天守の到達点

松江城天守は、二階分の通し柱を各階に相互かつ均一に配した「互入式通し柱」と、上層の荷重を下層の柱が直接受けず梁を通して横方向にずらしながら伝える二つの工法をあわせて用いたもので、望楼型天守の到達点に位置づけられています。

